

# 書の道

No.475

令和元年  
9月号・10月号  
黄庭経

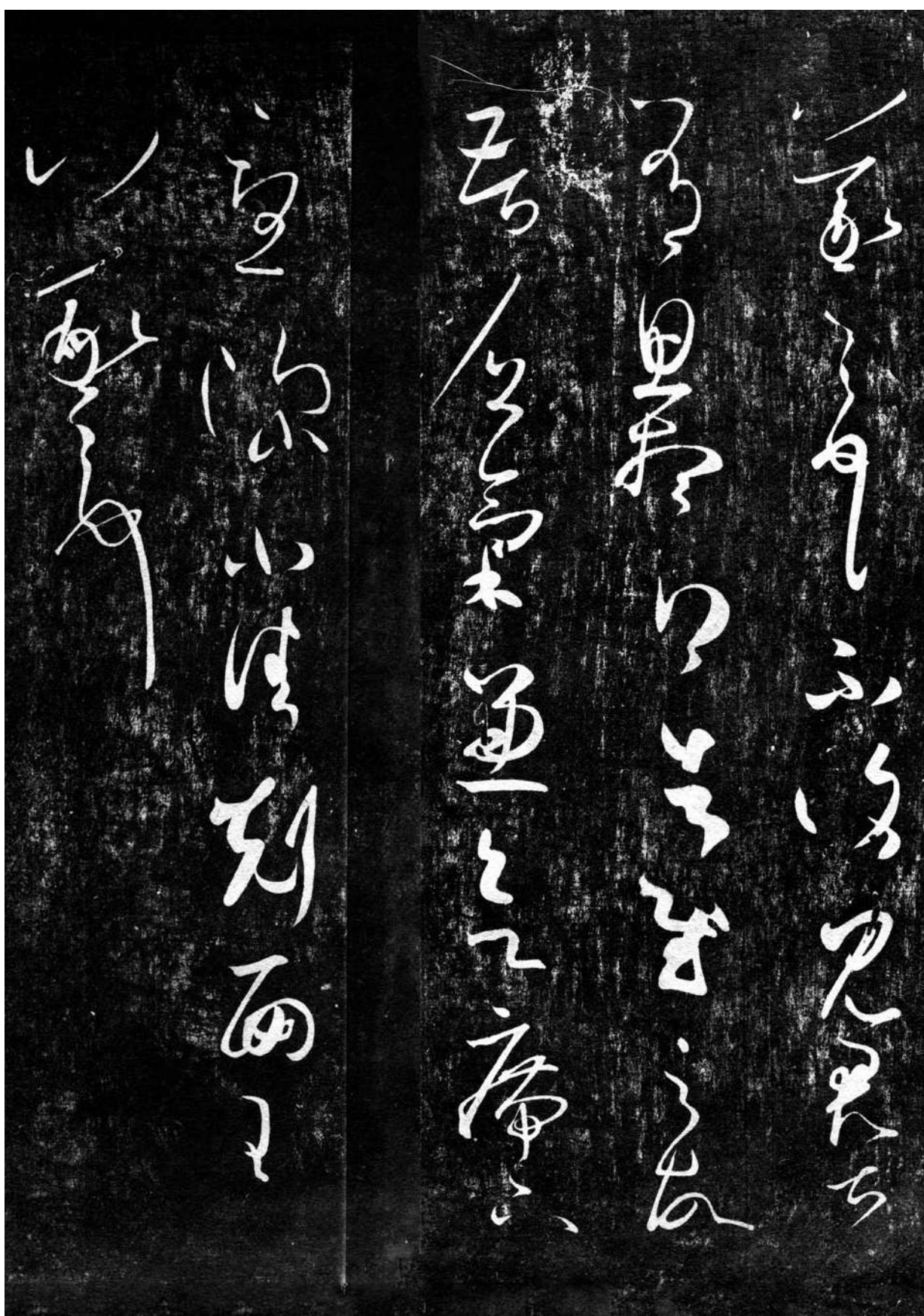


(義)

## 黄庭経

上有黄庭下關元後有幽關前有命<sup>門</sup>嘘吸爐外出  
 入丹田審能行之可長存黄庭中人衣朱衣關門壯籥  
 盖兩扉幽關俠之高魏<sup>と</sup>丹田之中精氣微玉池清水上  
 生<sup>北</sup>靈根堅志不<sup>固</sup>衰中池有士服赤朱横下三寸神所居  
 中外相距重閉之神廬之中務脩治玄籥氣管受精符  
 急固子精以自持宅中有士常衣絳子能見之可不病橫

思想帖



思想帖（餘清齋本）羲之頓首、不復見君、甚有思想、得告慰之故、苦之氣、無欲席下、憂深、小佳尅（而）面、王羲之頓首。

二〇一九年（令和元年）十月



2019  
10  
October

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

黄昏れて  
風の  
足音  
石路の  
花  
ななこの詩



真賞堂帖下

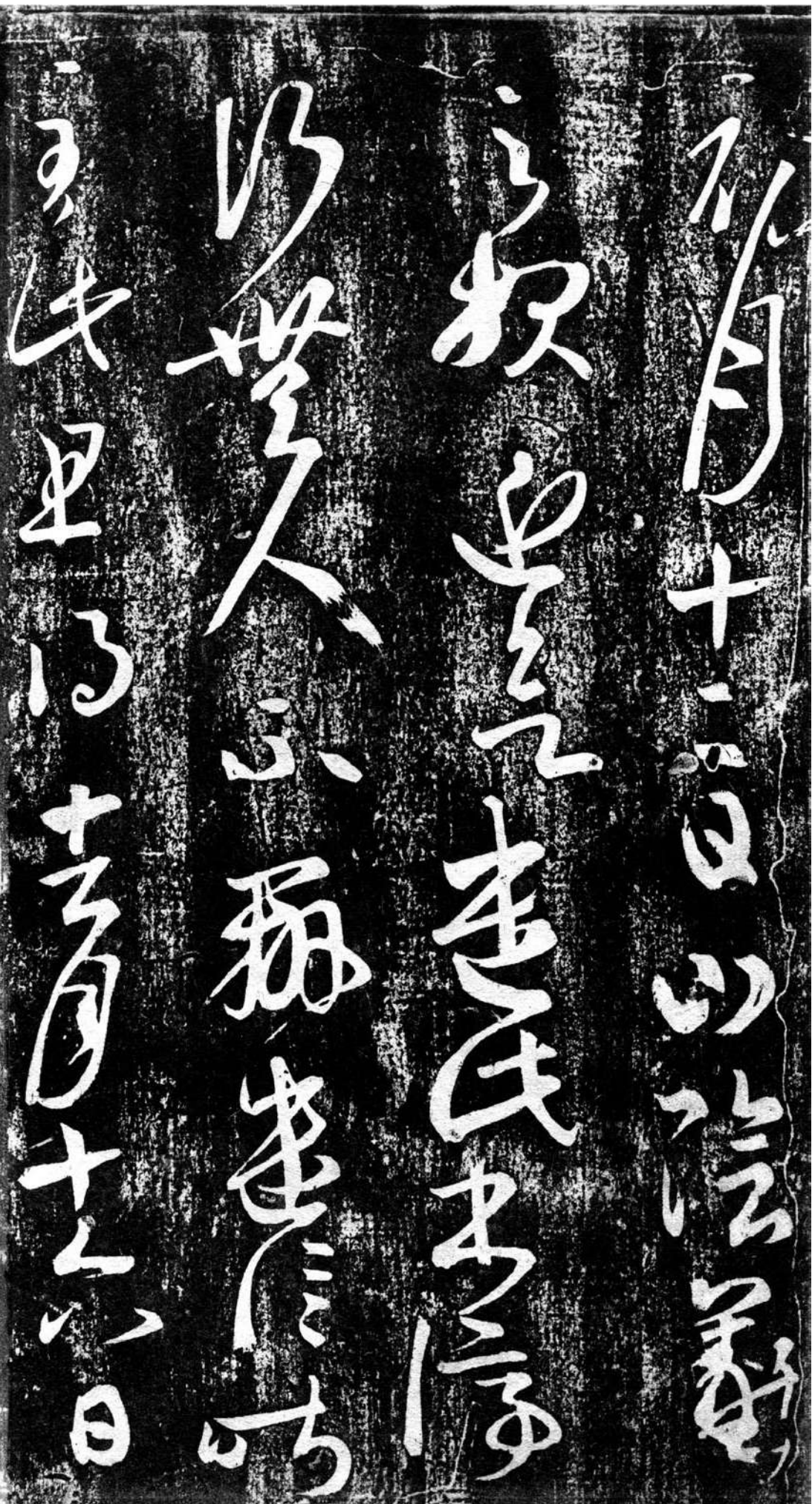
西代丹徒伯祖晉右軍將軍羲之書

十一月十三日羲之頓首  
頓首頓首

姨母衣以痛摧剥情  
不自勝奈何因及  
塞不次王羲之頓首

十一月十三日、羲之頓首。頃遭姨母哀。夕痛摧剥、情不自勝。奈何奈何。因反慘塞。不次。王羲之頓首頓首。

初月帖



初月帖（真賞齋本）初月十二日、山陰義之報、近欲遺此書、停行無人、不辨遺信、昨至此、具得去月十六日書、